



今泉地区 コミュニティだより

地域の広報紙

第26号

2019年10月18日

発行/今泉地区

コミュニティ協議会

編集/総務委員会

印刷/下野印刷(株)



からあげが揚がりました



1回100円でーす



スーパーボールすくい



おいしいものやゲームがずらり



泉が丘中学校吹奏楽部



おつまみ系も充実



フラダンスサークル



日が暮れて、盆踊りの始まり



打ち上げ花火



今子連のテントでは、かき氷などを買う子どもたちが行列を作り、他のテントもゲームやくじ引きをしたり、美味しい食べ物を求める人たちで賑わいました。盆踊りにはたくさんの方が参加し、恒例の花火も盛り上がりました。

この催しは地域の皆さんの協力による手作りのもので、今年で21回目となりました。今泉地区の伝統行事のひとつとして、今後も続けていきたいと思っています。

「夏の夕べ・盆踊り」開催
今泉地区コミュニティ協議会
まちづくり委員会
委員長 新部 榮夫

猛暑が一息ついた8月24日(土)、今泉地区「夏の夕べ・盆踊り」が開催されました。会場の今泉小学校校庭には、中央にステージが、周囲には多くのテントが建ちました。

地域包括ケアシステムとは、高齢者が介護が必要になっても住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、行政、医療、介護の分野と連携して、地域の中に形作る体制のことです。ここでは、宇都宮市による自治会向け説明会と資料をもとに、この新しい取り組みの概要をお伝えします。



地域包括ケアシステムの
実現へ

「ずっとここで暮らしたい」

自治会ごとに説明会

宇都宮市の呼びかけで、今泉地区でも昨年から、自治会役員、民生委員、福祉協力員に、病院、介護施設関係者、地域包括支援センターの職員を交えて勉強会が始まりました。中心的な組織となる協議体づくりに向けて検討を重ね、今年6月、自治会班長などより多くの住民に向けて説明会が行われました。

5自治会すべての説明会を担当したのは、宇都宮市高齢福祉課職員で、生粋の今泉っ子でもある山口健太さん(写真)。心なしか参加者のみなさまも温かく感じられる中、『地域包括ケアシステム』という聞き慣れない言葉の説明に、誰もが真剣に耳を傾けました。

求められているのは

ちよつとした手助け

宇都宮市の調査(左下グラフ)によれば、高齢者の6割以上が在宅での医療や介護を希望しています。しかし実際には8割近い方が医療機関で亡くなっています。とりわけ高齢者夫婦のみの世帯やひとり暮らし世帯では、病気や体の衰え、不安感などから、住み慣れた場所での暮らしを諦める人たちが多いようです。

もしも今住んでいる地域にちよつとした手助けをお願いできる仕組みがあれば、「少しでも長く、出来れば最後まで自宅で過ごしたい」という多くの人の願いを叶えることができているのでしょうか。

例えば、清原地区でのアンケートで『高齢者が支援を希

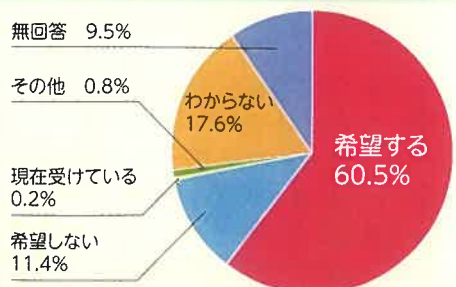
望すること』を尋ねたところ、『話し相手』との答えが大差で一位でした。次に『庭など屋外の掃除』『車での送迎』と続きます。専門職に頼らなくてもできそうな、小さなサポートが必要とされていることがわかります。

また、そのような生活支援のほかに、「最近元気がないな」「今日はカーテンが開いていないな」などというさりげない見守りも、地域だからできる大切な支援だと考えられます。

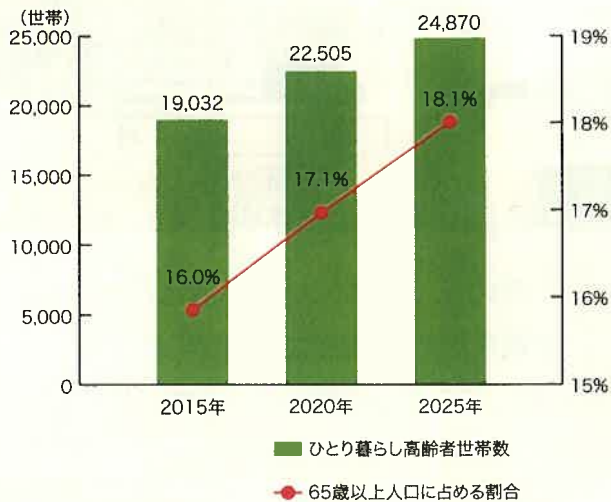
地域で支え合う仕組み

宇都宮市では年々高齢化が進み、ひとり暮らし高齢者の

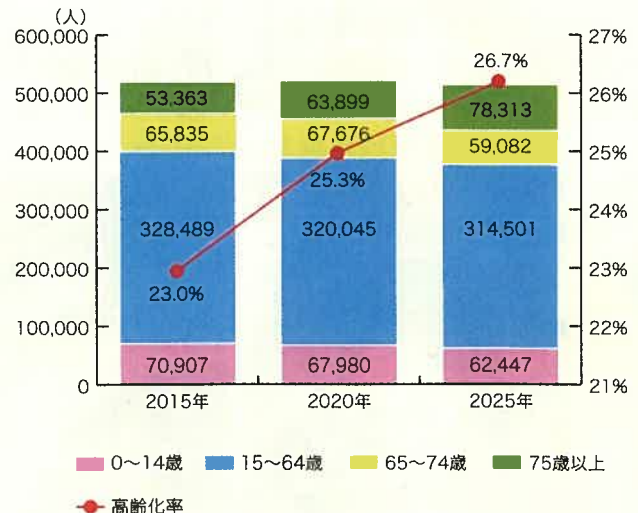
●在宅医療や介護を希望しますか？ (対象：宇都宮市在住の高齢者)



●宇都宮市のひとり暮らし高齢者世帯数と割合



●宇都宮市の年齢階級別人口と高齢化率



私たちにも何かできる
ことがありそう

無理なく続けられるって
ことが大事だね



どんなものがふさわしいの
か、今泉地区でも自治会単位
で検討が始まりました。

数も増え続けると見られてい
ます(上グラフ)。今泉地区でも
同様の傾向にあることから、地
域での対策が差し迫った課題に
なっています。
問題は、高齢者支援を個人
の善意にまかせるのではなく、
具体的に安定した仕組みとし
てどのように機能させていくか
ということです。
元気な間は困りごとがある
人の支援をし、必要となったら
支援を受ける。そんな支え合
いの体制を地域の中に構築し
ようというのが市のねらいで
すが、これといつて決まっ
た形は示されていません。

今泉地区では？

今泉地区は農業地帯であつた
長い時代を経て、駅東の開
発に伴い近年急激に姿を変え
てきた町です。新旧入り組ん
だ様々な顔を持っています。
昔ながらの「軒家が多い、マ
ンションに住む若い世帯が多い、
店舗や事業所が多い、それら
が混在しているなど、自治会
ごとの特徴に加え、ひとつの
自治会の中でも場所によって
違いがあります。それだけに
各々の自治会が考える支え合
いの形も違うようです。

普段の生活の中で取り組めることを

宇都宮市高齢福祉課 地域包括ケア推進室 山口 健太

高齢者が住み慣れた地域で
安心して暮らし続けられるよ
う、今、市内の様々な地域で
支え合いの体制作りが始まっ
ています。

この取組を進める上でポイ
ントとなるのは、『普段の生
活の中で、無理なく取り組め
ること』から始めることで
す。例えば、ひとり暮らしの
方などが安心して暮らせるよ
う『見守り』を行っている地
域がありますが、日にちを決
めて訪問するのではなく、日

「向こう三軒両隣というイ
メージで、生活支援や日常的
な見守りを行う新しい仕組み
を作れないか」と模索してい
るところもあれば、「昔から互
に見守り支え合う関係ができ
ている。改めて何かをやるこ
とは考えつかない」というこ
もありです。
方法は違っても、「長生きし
て良かった」と思えるまちづく
りの理想は同じです。誰もが
いつかは向き合う問題を、今、
自分のこととして考えておくこ
とが何より大切ではないでしょ
うか。

高齢者をはじめ誰もが安心
して暮らせる今泉地区を目指
し、難しく考えるのではな
く、身近に取り組める地域の
仕組みづくりについて一緒に
考えてみませんか。

今泉地区の行事報告

5 月

19日 球技大会（ソフトボール・バレーボール）《体育協会》

今泉小学校の校庭と体育館で、自治会対抗の大会が行われました。ソフトボールの優勝は今泉北でした。バレーボールは今泉東が優勝し、連覇記録を更新しました。



6 月

2日 球技大会（野球）《体育協会》

泉が丘中学校の校庭で、野球の大会が行われました。決勝戦では今泉南が今泉北に勝利し、優勝を果たしました。



7 月

7日 ハイキング《体育協会》

湯滝から小田代ヶ原を抜け竜頭の滝を目指すコースを歩きました。家族連れ、子ども連れなど50名を超える参加者が、初夏の日光を楽しみました。



編集後記 広報紙では、地域活動の様子を紹介しています。恒例の大きな行事だけでなく、新しく立ち上がった活動や、あまり知られていない地道な取り組みなども取り上げていきたいと思えます。ぜひ広報紙用に写真を一枚撮って、コミセンまでご連絡ください。よろしくお願ひします。(総務委員会)

15日 今子連 夏祭り

子どもみこしと山車が町を練り歩きました。沿道にはおひねりを持って待つ住民の姿があり、子どもたちとのやりとりも心温まる光景でした。



18日 やさしいソフトヨガ

《健康づくり推進員会》

好評のため今年度から月1回の開催となりました。「とにかくゆったり明るく、気持ちいいなと感じてほしいです」とインストラクターの佐藤さんは話しています。



29日 環境施設研修会《環境委員会》

茨城県八千代町のリサイクル工場を訪れ、ペットボトルやトレーなどの身近な使用済み容器が、新たな資源として加工される工程を見学しました。



8 月

1・2日 わくわくステーション おやつ作り《今泉小放課後子ども教室》

2日間で20組42名の親子が参加し、寒天を使って琥珀糖と水ようかんを作りました。



24日 夏の夕べ・盆踊り《連合自治会・まちづくり委員会》→1ページ

9 月

8日 敬老会《社会福祉協議会》

百歳を迎える方が一名おられ、式典で国と県から表彰状と記念品が贈られました。その後、合唱などが披露されました。



みんなで歌おう (7月4日)

泉の杜サロン【一般向け】

★11月7日(木)

『手作り味噌を作ろう』大和屋商店

★12月5日(木)

『笑いヨガ』高岩初枝さん



浴衣の着付けを習おう (7月13日)

ファミリーカレッジ今泉

【今泉小保護者向け】

★11月2日(土)

『心もスッキリ・上手な収納術』

ハウスクリーニング協会

※毎回、回覧で参加者を募集します。詳しくはコミセンまで。

※1月以降の予定は決まり次第お知らせします。

コミセンの講座案内